

岩手山山開きで見られた花々

平成26年7月1日（火）に開催された岩手山山開きでは、色とりどりの花々が見られました。当日見られた花々の一部をご紹介します。

(写真1) ハクサンチドリ

ランの仲間で、鮮やかなピンク色の花を咲かせます。ちょうど今回の山開きが見頃となっており、標高1000m前後から、登山道の沿いに点々と花を咲かせていました。特に8合目のお花畑では、多くの花を見ることができました。



写真1



写真2

(写真2) シラネアオイ

この花は、本来咲くのは初夏なのですが、8合目のお花畑では満開でした。8合目にはまだ残雪が残っており、雪解けの遅い場所では7月に入っても花が見られるようです。なお、この花、きれいなピンク色の花びらのように見える部分は、実はがく弁です。

(写真3) オオバキスマレ

シラネアオイと同じように、雪解けとともに咲く花です。「大葉黄堇」と漢字で書くように、スマレには大きな葉をつけ、草丈も高く、葉の間から1つの黄色い花をつけます。よく群落をつくり、一面が黄色く染まる光景は壮観です。8合目付近によく見られました。



写真3



(写真4) タカネスミレ

秋田駒ヶ岳の群落が有名なタカネスミレですが、岩手山でも山頂付近に見られます。山頂付近は火山礫でザラザラしており水はけがよいことから、きっと地中深くに根を伸ばしていることでしょう。

写真4

(写真5) イワウメ

高山植物の中でも、特に厳しい環境の岩上などにしがみつくように生えています。草丈も数cmと非常に低く、がっちりしています。このイワウメ、見た目は草のようですが、実は樹木ということになっています。山頂周辺で咲いていましたが、花は終わりかけていました。



写真5



(写真6) ハイマツ

高山帯の代表的な植物であるハイマツですが、その花がとても綺麗なことはあまり知られていないのではないかと思います。ハイマツは雄花と雌花が別で、雌花は綺麗な紅色に色づきます。標高1600m付近でちょうど満開でした。

写真6

(写真7) ベニバナイチヤクソウ

ハイマツの下に目を向けると、時々綺麗な花が目にとまります。本種もそのひとつです。半寄生という特殊な生態をしており、菌根菌を通して周囲の樹木から栄養をもらっているそうです。7合目付近で見られました。



写真7



(写真8) コケモモ

ジャムの原料になる赤い実をつけるコケモモですが、今の時期はまだ綺麗な花を咲かせていました。ツツジの仲間、花もドウダンツツジによく似ているのではないかと思います。7合目より上に見られました。

写真8

(写真9) ヤマオダマキ

樹林帯からお花畑まで、今回最も上から下までよく見られた花ですが、さすがに登山口近くの樹林帯では花が終わっていました。オダマキの名の由来は、中心が空洞になるように巻いた麻糸の玉（おだまき、苧環）に花の形が似ていることによりです。



写真9



(写真10) コミヤマハンショウヅル

ツル性の植物で、ダケカンバなどの下でひっそりと深い紅色の美しい花を咲かせます。美しい花を咲かせる園芸植物として知られているクレマチスは、花の形はずいぶん違いますが、本種にごく近い仲間です。

写真10